教育情報

# 桂川っ子

VOL.3

## もったいない（勿体無い）！

桂川町教育委員会
委員長　青山　堅太郎

雨上がりの午後、飯塚市郊外を車で走行中、下校中の小学校四・五年生位の男子児童が、持っていた傘を草むらに放り投げ、そのまま立ち去ろうとした。

車を止め、その児童になぜ捨てたのと問いかけると、持って帰るのが面倒だからという返事が返ってきた。

そんな「もったいない」ことしていいのかなぁ！と諭すと、おびえることもなくわかりましたと言って持ち帰った。

「もったいない」という言葉は、もともと「不都合である」、「かたじけない」などの意味で使用されていました。

現在では、一般的に「物の価値を十分に生かしきれないままに、無駄になっている状態やその状態にしてしまう行為を戒める」意味で使用されているようです。

２００４年にノーベル平和賞を受賞されたケニア出身の環境保護活動家ワンガリ・マータイさんが、「もったいない」という日本語を理解され、環境問題を考えるとき重要な言葉である、世界共通の言葉として広めようと、あらゆる機会で引用され、「もったいない」という言葉が世界中に広まった旨のテレビ報道を思い出しました。

物余りの時代と言われる今日、保存・保管が面倒だからと食物など膨大なものが簡単に廃棄されています。

物や食料などが自分の手元に届くまでの生産者の苦労や流通過程を正しく理解させ、物を大切にする心を養うことも基本的生活習慣の定着につながるのではないでしょうか。

## 「我が子を通わせたい学校」

―桂川東小学校校長　城谷　登志江―

本校は、かつては日本一の分校といわれ、千四百名近くまで児童数が増えたため、昭和三十三年に独立しました。現在は、七学級百十八名の児童が在籍しています。

昨年四月に着任して以来、私は、先生方に「我が子を通わせたい学校」創りをお願いしてきました。教職員一人ひとりが保護者の立場に立ち、どんな環境・条件が整えば、我が子を通わせたいと思うのかと常に問いかけてきました。その実現のために、本年度、学校の教育目標を次のように設定しました。

「友達を大切にし、がんばり抜く心と体をもって、しっかりと学習に取り組む子どもの育成」。そして、目指す子ども像は、「**ひ・が・し**」の文字を一文字ずつ取って合言葉として言えるようにしました。

**ひ**　人と人とのかかわりを大切にできる子

**が**　がんばり抜く心と体をもった子

**し**　しっかり学ぶ子

学校行事や様々な集会の折には、必ずこの三つの目標に触れ、意識づけを図っています。

また、幸いにも本校は、地域の方々のボランティア活動にも大きく支えられています。おはよう会のあいさつ運動、登下校時の子ども見守り、読書ボランティアによる読み聞かせ、総合的な学習の時間におけるゲストティーチャー等。

大勢の学校応援団の皆さんと双方向の支援関係を築きながら、「我が子を通わせたい学校」創りに努力しているところです。

尚、本年十一月二十二日（土）に、本校創立五十周年記念事業を予定しています。多くの皆様のご出席をお願い致します。詳細はまた、広報や学校だよりでお知らせ致します。